

秋から冬にかけて、目立った草花がない中、林内や草地で見つけることができます。名前から分かるようにシダの仲間ですが、よく見ると、2種類の葉をつけていることが観察できます。穂のように上へ伸びたものは胞子葉（実葉）と呼ばれ、胞子のう（胞子が入った袋）を着けています。

胞子は、秋から冬にかけて成熟し黄色くなるので、穂が花のように見えます。もう一方の葉は、栄養葉（裸葉）と言い、光合成を行っている葉です。いかにもシダの葉らしく、葉の先（羽片の裂片）が鈍頭の個体が多く見られます。

この時期には、オオハナワラビも見られますが、こちらは葉の先（羽片の裂片）がとがっているのが特徴です。



▲胞子葉を伸ばすフユノハナワラビ

おいしい自然園園長 一寸木 肇

【おいしい自然園 HP】



や動物観察
植物園など
自然観察
の成果を
掲載して
います。

▲大井町の動物園や自然観察の成果を掲載しています。

【自然NOWへの投稿】



自然観察を
待ちたい
身近な自然
の情報を
お待ちして
います。

▲町内の身近な自然の情報をお待ちしています。

※撮影は横位置で。